

第158号
2019年
7月21日

期日：7月28日（日）

夕刻 5 時 ~ 6 時半

プログラム

お勤め

法話

『浄土真宗のみ教え』

《如来のよび声》

放談会（自由に話しましょう）

仙教讚歌齊唱

法味

み
仏
の

鏡（かがみ）にうつる

わがころ

はすかしうれし

ご恩とうとし 御恩報謝

＊如来の光明に照らされ

我が身のあさましさが知らされ
救いの身のうれしさを思いつつ

ご恩の生活にいそしめる道

法輪寺前住職隆法遺作

(Q) 仏の教えによつて「生きていく上での苦しみ」から救われると聞いたことがあります、本当にこれが真実であるか疑問に思うことがあります。

(A) 「生きていく上での苦し

み」からの救いを、生老病死から逃れることや、自分の欲望を満たすことと考えるならば、仏教で救われることはないでしょう。

仏教は人生の上だけでなく、もっと根本的な解決を目指します。

「疑問に思う」とのことですが、単に感覚的な思いであるならば残念です。是非とも真実を求めてまづは聞法して下さい。連研がその機会になればと願います。

(Q) 私は、13年前に母を、そして今年に父を亡くしました。父の夢を見た時元氣な声が聞けました。夢を見る事はいい事でしょうか？

(A)「夢」は一般的に深層心理

の現れと考えられています。

親鸞聖人の生涯においても、六

角堂での聖徳太子の夢（六角夢）など、夢が大きな役割を果たしています。

父母の夢を見ることは貴方の
深層心理に父母がおられるとい
うことで良いことではないでし
ょうか。ただし、宗教的なもの
として捉える必要はないでし
う。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇
 (Q) 生まれ変わるといふことが本当にあるのでしょうか？

（A）お釈迦様は迷いの世界を「六道輪廻（ろくどうりんね）」

として示されていますが、ご質問の意図は「私が死んだら何かに生まれ変わることがあるのでしょうか？」ということだと推察します。

実はこの質問はお釈迦様の時代でもあったようで、「有無の見」といつて死後の世界が有るのか無いのかとの議論です。

お釈迦様はどちらにかたよる

この道
ことも
否定さ
れまい
しけれ
ない
縁起

がつぎの私を作ることは間違い

なく、大切なのは今の私の生き

方には最善を尽くすことである。説かれたのです。私たちの最善

の生き方は、南無阿弥陀仏の願
いの中で生きることです。

てよかった、生まれ甲斐があつた、と思えるような人

てよかった、生まれ甲斐があつた、と思えるような人生を送りたいものです。

○豊かな人生とは

蓮如上人の『御一代記聞書』の中に「大和の了妙」と「堺の日向屋」という二人の人の話があります。

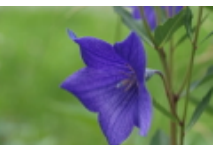
了妙という方は女性で、もともとは造り酒屋の奥さんとして豊かな暮らしを送っておられました。

ところがご主人に先立たれ、おまけに長男まで亡くして、その造り酒屋を追ひ出されてしまったのです。

今にも崩れそうな小屋で、食うや食わずの日暮しで、毎日出てくるのは愚痴ばかりだったそうです。

そうした中、ある夏のかんかん照りの暑い日に、布教の旅を続けておられた蓮如上人さまとそのお弟子さん達が、喉がかわいたためある粗末な家に水を求めて立ち寄られました。その家こそが了妙の家でした。

ところが了妙の家の中には水をくむ器さえもない状況で



しくなっていました。

そこで御文章に「無常の風きたりぬれば、すなわちふたつのまなこたちまちにとじ、一つのいきながくいたえぬれば」と書かれていたことを知り、無常の風さえ避ければ死なないのだと思ひ込み、なんと財宝が積み上げられた倉に閉じこもってしまい、あげくの果てに衰弱して死んでしまったのです。

それを聞いた蓮如上人は「堺の日向屋は三十万貫もの財産を持っていたが、仏の法を信じることなく一生を終えたので、仏にはなっていないであろう。大和の了妙は粗末な衣一つ着ることができないでいるが、このたび仏になるに違いない」と仰ったのです。

私たちにとって本当に求める世界というのはどこにあるのかを示唆してくれるお話であると思います。

